

圖碁
定石

五日竝指南

全

室直三郎著

困基
定石
五目
並指南

全

高陽書肆

梅楓交枝軒藏版

樂

獨樂不若與人樂

朱甫介史題



圍碁五目並序

碁雖小技蓋有二用焉其奇
正變化神幽鬼沒已陷于死
地復開活路可以悟兵矣其
方壹鬱之時丁二對局可以

散憂矣莊周曰道也進乎技
若有由是以進乎道者其用
益大矣豈謂一小技哉因題
明治廿四年八月於醉經堂
荷苓香動處矣

湘洲學同岬澤士剛撰



杏村仙史書



藝戎小式序



優柔尚敗古今之常理也
趨之偏哉持藝尚然人之在
世也不若初尚敗者紀靜矣
夫關之深哉競勇又之觀之學術
高工皆無不然其以競爭也

思為優勝之事在在形神
智靈通如河海載我素獻
也雖然則悟至智則一也古以
善悟立召符詔或波龍激
我龍邀我悟多矣以為難
乎亦在悟士極其精以而為

乎召物以方稱之人累世究
之而不能悟者豈氏著感
我小式歟上釋也以示余之云
人之靈腦不活濃運動則病
敗感我隆小技召補運動
則助靈智之而為妙有實

氏之淑意生茲乎
寄好語以題於冠首
明治廿四年字如之月

北越高田 鷹見爽旭撰



自序

吾は進化するを以ておのれを繁く
〜人の精神を養ふものなりと欲
う。又をなすにあらざる。快楽
は即ち快楽も種々あれど式ハ首者
と過キ。式ハ下賤とスル。の如きハ俗
を保カズ。雅にても高なる俗に
賤なりと云ふ者ハ蓋し固具中の五

目録をも然^{しか}あれど其道なごう
あき^{ヤス}教書は甚ふきやうやうに遺
憾ふたふたり。う。曾^ヨ予^ヨ書中
ふた老部と書有る。試^コを志みの
拙^ツとなふり。あつた本意をうき
ふたふたれハ甚ふ公^コとてんるをたふ
く知友の進^メに従^フひ。ば友国自
定ふ五自録指南と名付。梓^シあけ

く初ふり人の標榜とあふぬ。

あつたふ五つのを。

あつたふ。

いふあゆけたふ。

車をとるふ。

あつたふ。

あ

李法堂曰王龍何同
時多主動于戈者機
一變立天下妙在元
來不在外

歌王目亦堪嘆紅樓夢



五布小式叙

孟子稱奕秋子曰有博奕
者猶賢於己陸象山先生
觀奕不云乎河圖洛書正
在裡許竟舜之化豈徒然
哉五布也者碁院之本
技碁者多入達士之清談
也五布何得為清談哉何

則手敗隘也然而欲行以
公於世可謂深切於此技
者也予漫與命名字五並
五列五布五連而予也從
五布

明倫彙編 家範典 孝友典 孝行

如走山下洋雲子



無得算者未下一子勝負已決
者也志曰堯造棋以教子丹朱
又曰舜以子商均愚故作碁以
教之由是觀之非極聰明不能
下一子也頃者室氏著圍碁五

目並蓋入碁之明也及其請序
不辭書之

明治元年秋日

秋古山本祝



序



孫子曰兵者國之大事死生之
地存亡之道不可不察也故經
之以五事校之以計而索其情
一曰道二曰天三曰地四曰將

五曰法知之者勝不知者不勝
豈惟兵為然哉圍碁亦然故講
兵之人必可倫棋局而學碁之
人亦不可不講兵也不然則不
能察死生之地存亡之道所謂

五目並序

平相國清盛へいそうふくきよもり體あやれ自比よろこみ山東さんとう都みやこ

軍配ぐんはい加減かげんもめつたゆ由ゆ断だんあらぐ

弁慶べんけい法師はふしも九郎殿くらをどの天狗てんぐ象戲せうぎ鼻はな

をつすれね膝ひざ押枕おしまくら引ひきあだとお馬うま洒落しやれ握會にぎあひ

ねん まびだいじん くも す ひつかつ
不どの念もさ吉備大神が蜘蛛の巣より掛

かきやまぶし ふくだい
ても柳山伏り踏臺よされ人事を思ふわいよ

あつちでつちいぶ すごろく
室主人の著す五目並みの頃始りか

あつちでつちいぶ すごろく
あつちと綴五重五圍棋と雙六まけて佛頂

おらめ そちもくやぶはらめ ちいてき
面を隠すより傍眼八目通視の都的よ

てうだい こそち べつぴん おいて
けんつ頂載より二ハの別嬪よ追手

あうろをやつせう ゆびさきへ
ですよと白魚ハッ剣と云指先てつかも

も
ハ敢るくハあませんかと自悔ら〜

そーめ ーる
是首よ識す

読最事卯五月於真田ミヨバヤ

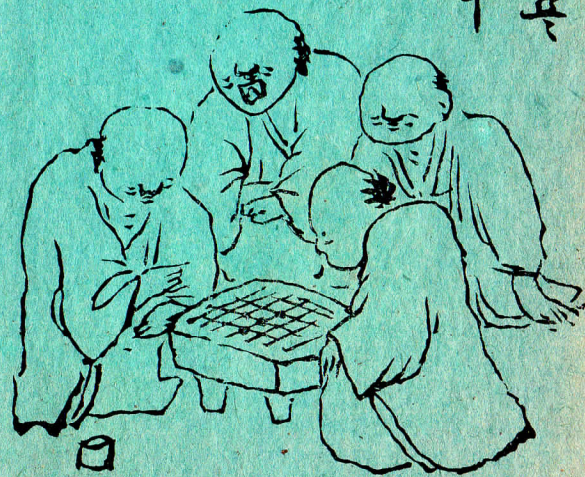
有町中込山本興吉



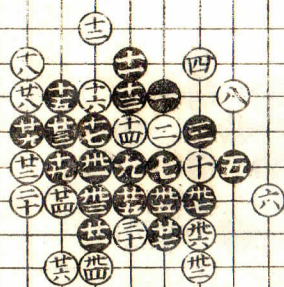
黑白從橫衝敵兵
 兩雄秦越互相爭
 傍人倚劍添蛇足
 時祀隨鷄
 膺膺

石門山人詩畫

看經堂
 墨香齋

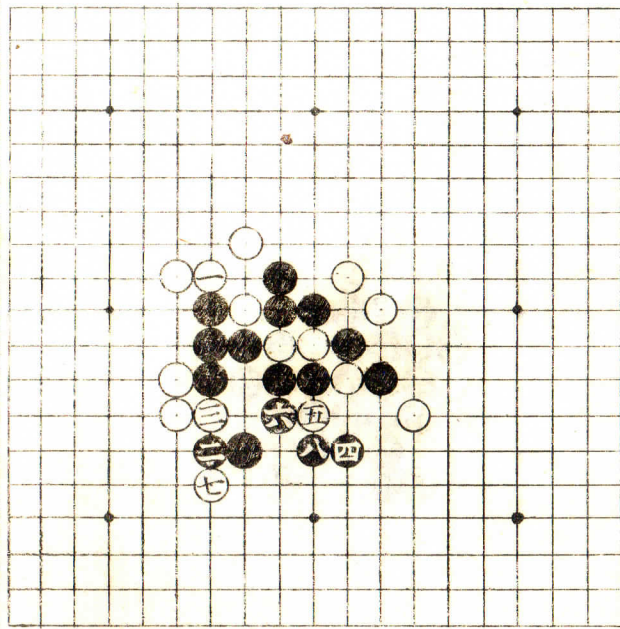


一
 番



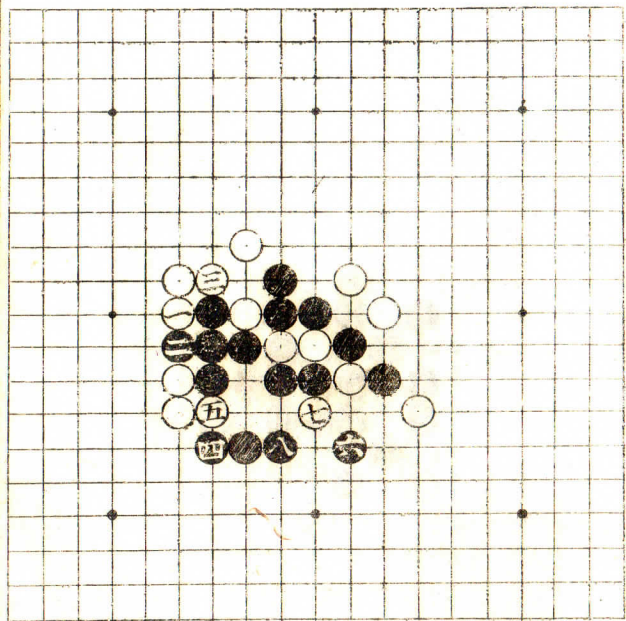
二番

一番ノ廿四ヨリ替ル



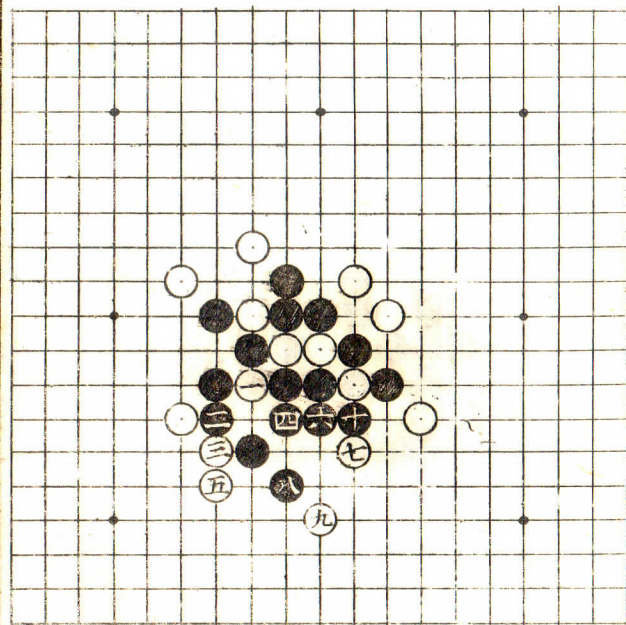
三番

二番ノ一ヨリ替



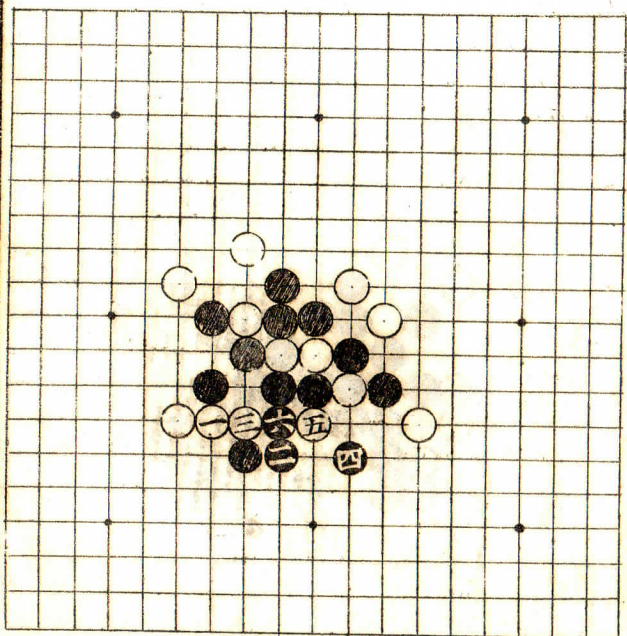
四番

一番ノセニヨリ替



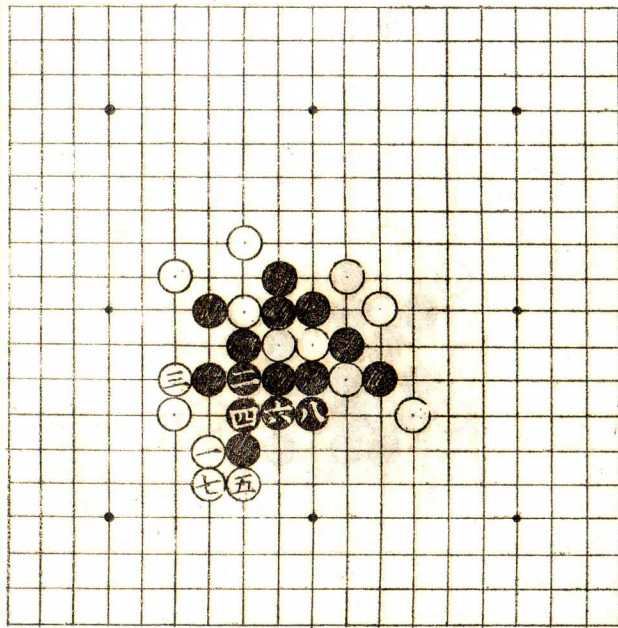
五番

四番ノ一ヨリ替



六番

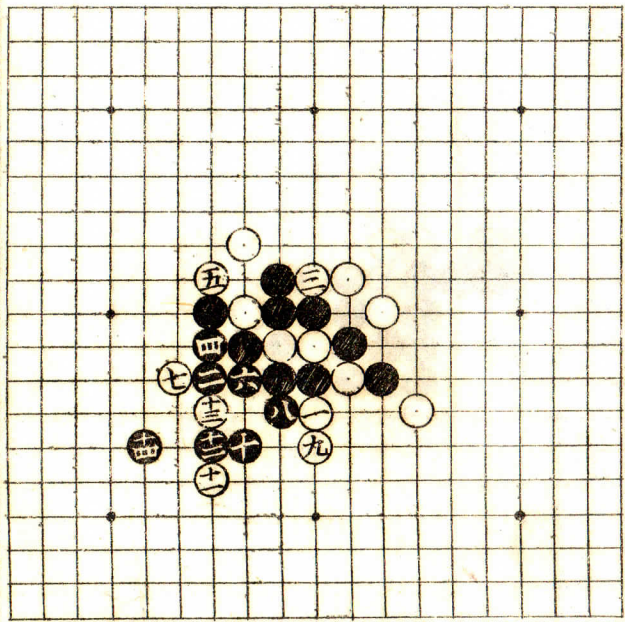
五番ノ一ヨリ替



七番

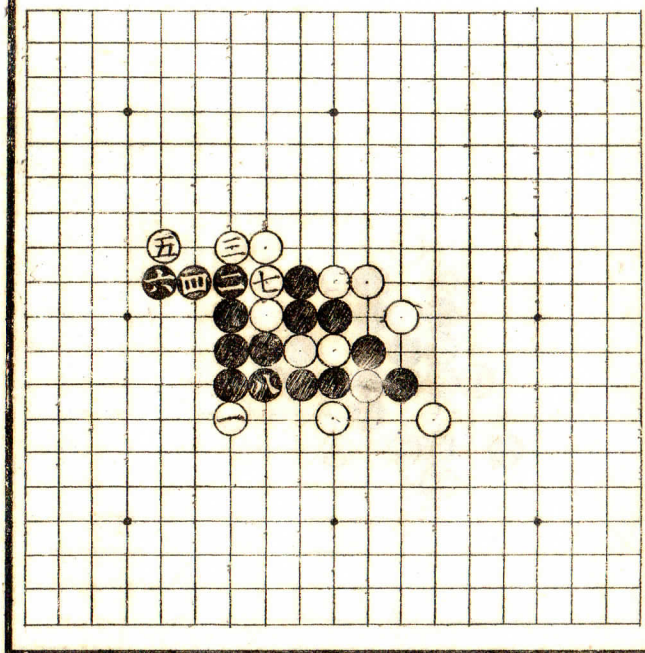
一番ノ十八ヨリ

替ル



八番

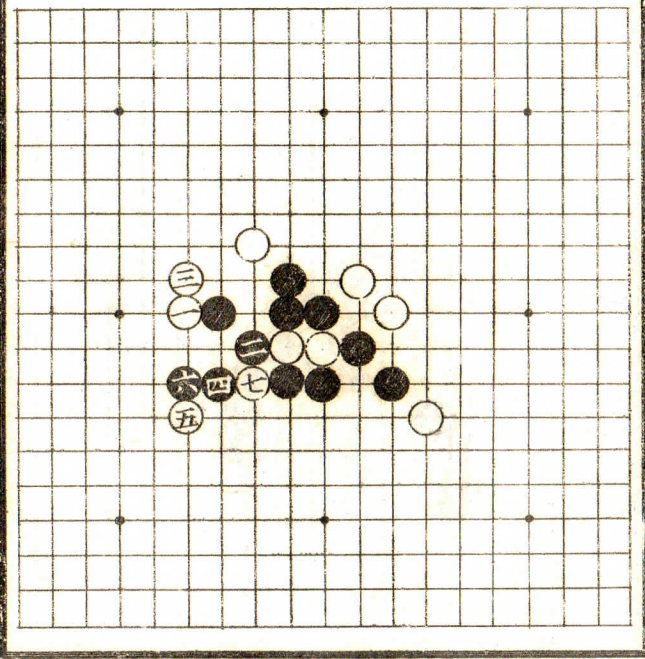
七番ノ五ヨリ替



九番

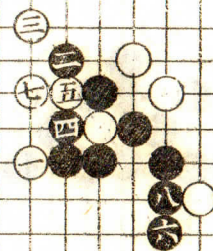
一番ノ十六ヨリ

替ル

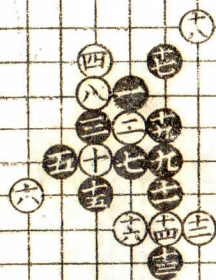


十番

一番ノ十ヨリ替

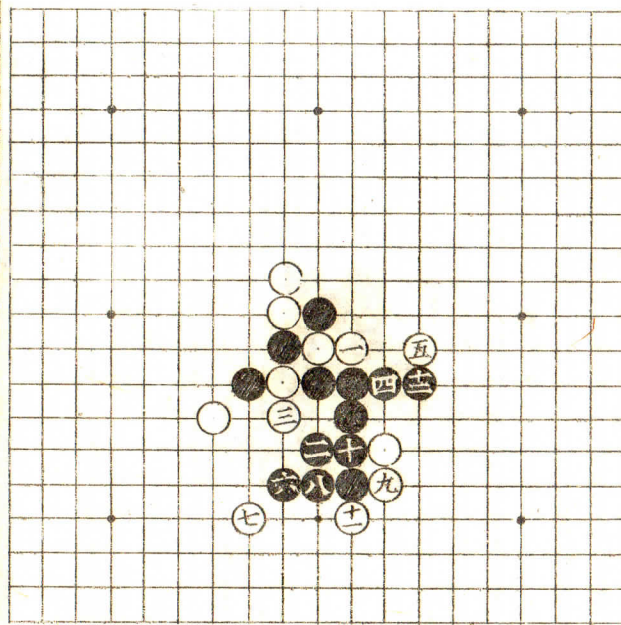


十一番



十二番

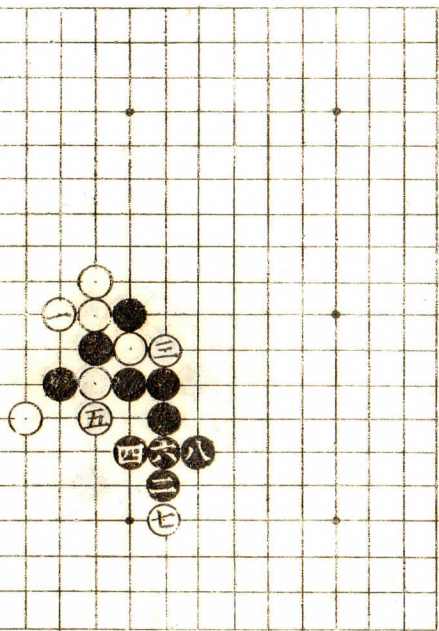
十一番ノ十四ヨリ
替ル



十三番

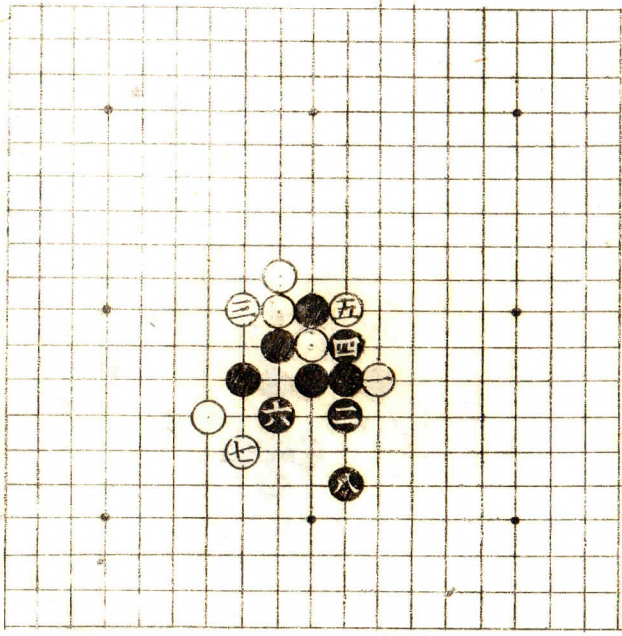
十一番ノ十二ヨリ
替ル

三ノ時六ノ処ヨリ
止レハ十一番同様
ノ勝ニナル也



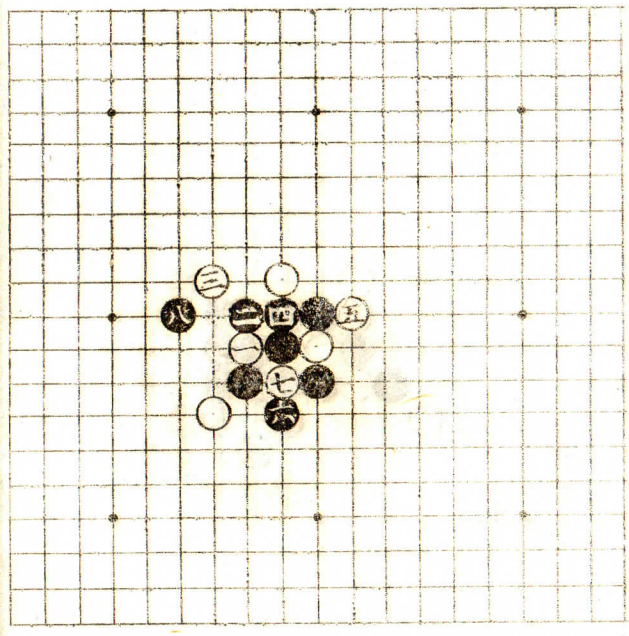
十四番

十一番ノ十ヨリ
替ル



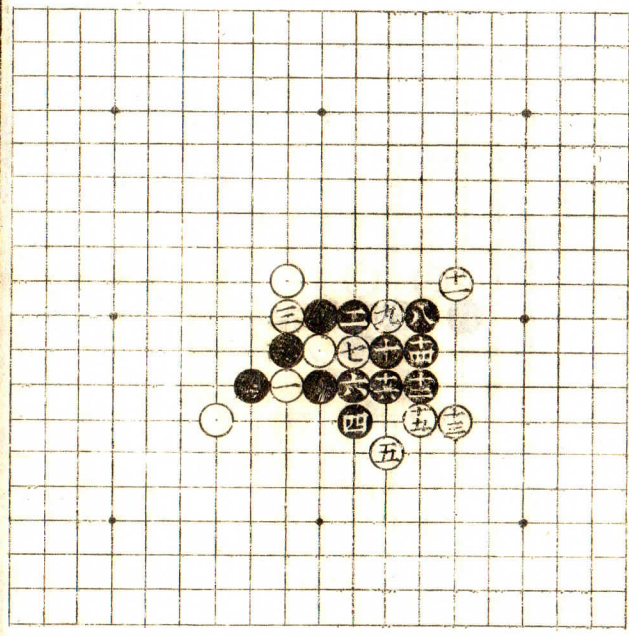
十五番

十一番ノ八ヨリ替



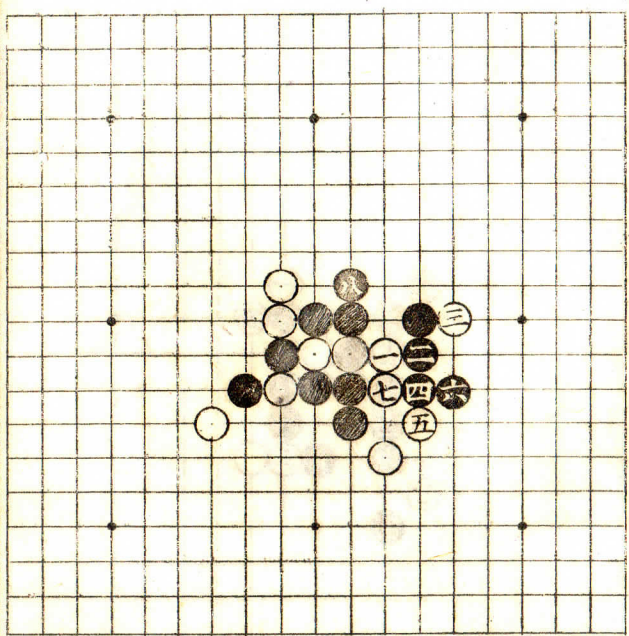
十六番

十五番ノ一ヨリ
替ル



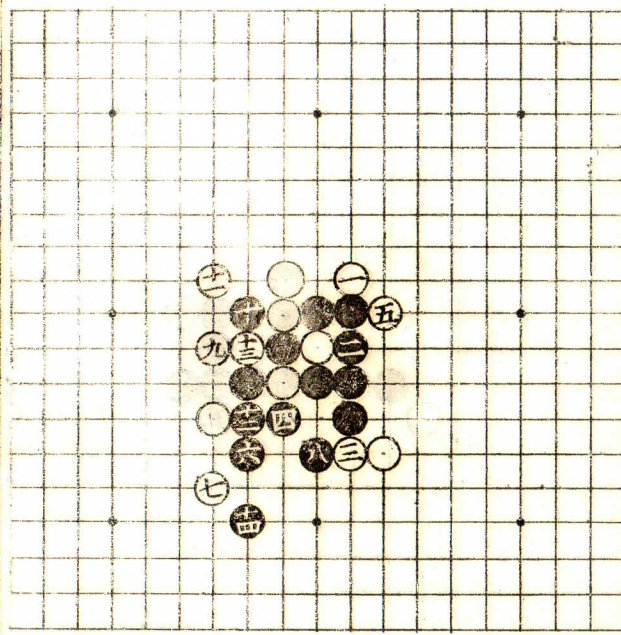
十七番

十六番ノ九ヨリ
替ル



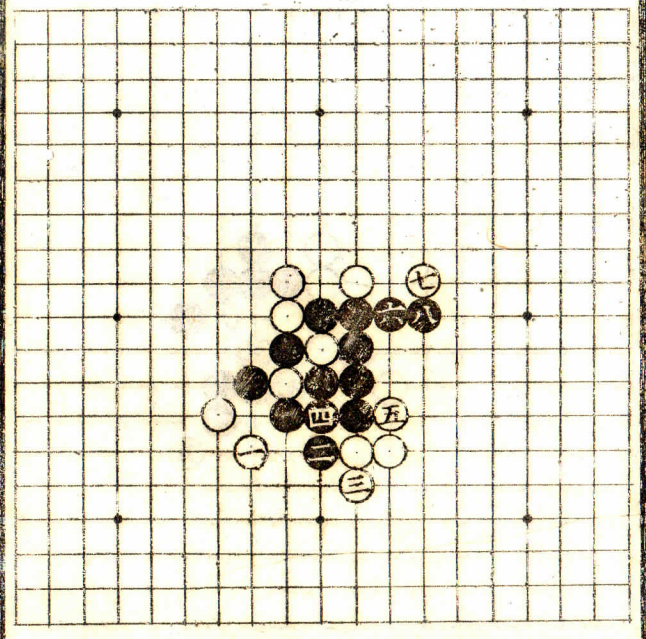
十八番

十六番ノセヨリ
替ル



十九番

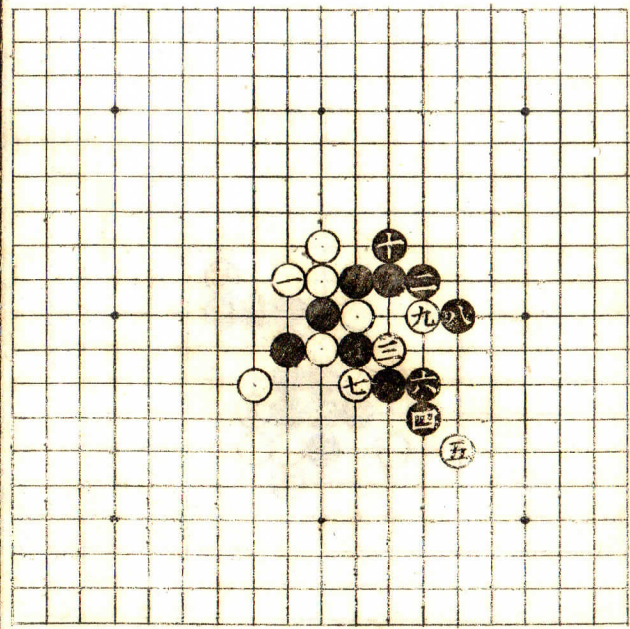
十八番ノセヨリ
替ル



二十番

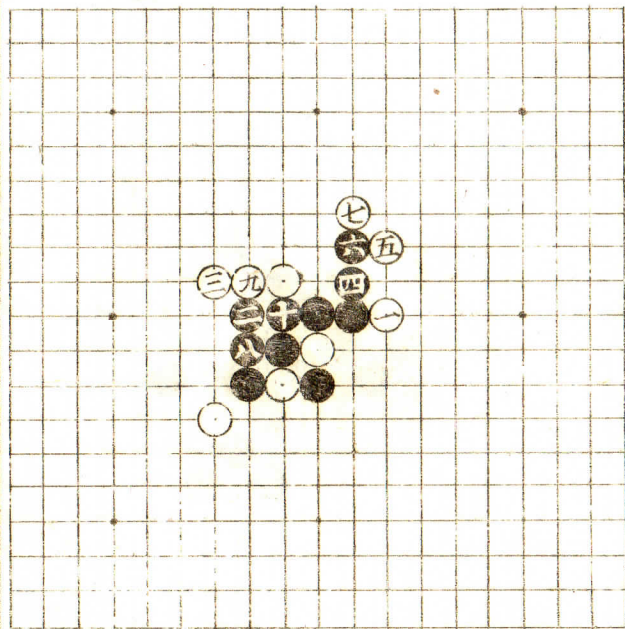
十六番ノ五ヨリ
替ル

三ノ時十ノ処ヨリ
止レハ同様ノ打
方ニテ少シク早
ク勝ニナル也

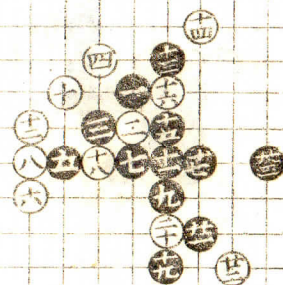


廿一番

十六番ノ三ヨ
リ替ル



廿二番



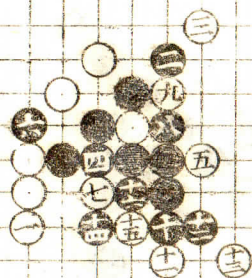
廿三番

廿二番ノ十二

ヨリ替ル

三三ノ勝

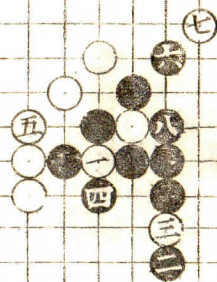
三三ノ手ニ三三アリ飛三アリ三々アリト虽皆ナ勝負トスルニ足ラズ然レモ若シ三三ノ手ニテお分ケトセサレハ適手ニ勝ヲ制セラル、ヲ以テ不得止三三ノ打込ヲナシ引分ケトスベシ



廿四番

廿三番ノ一ヨリ

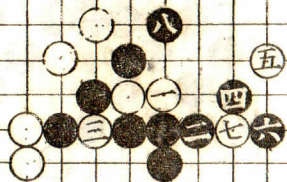
替ル



廿五番

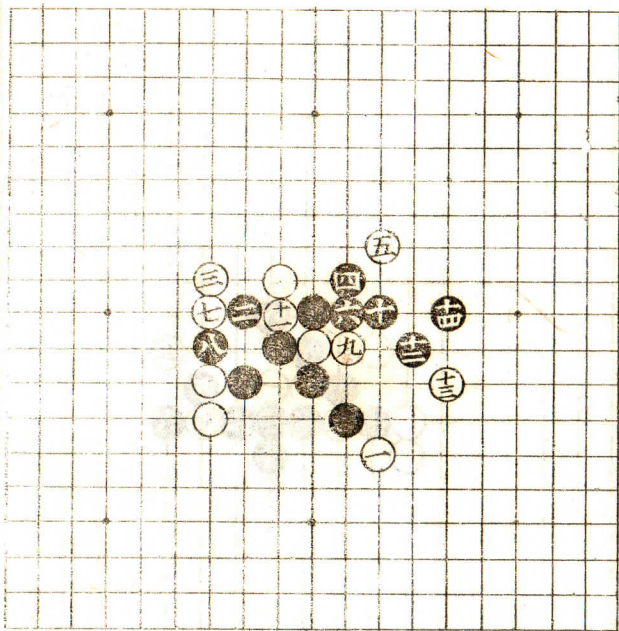
廿四番ノ一ヨリ

替ル



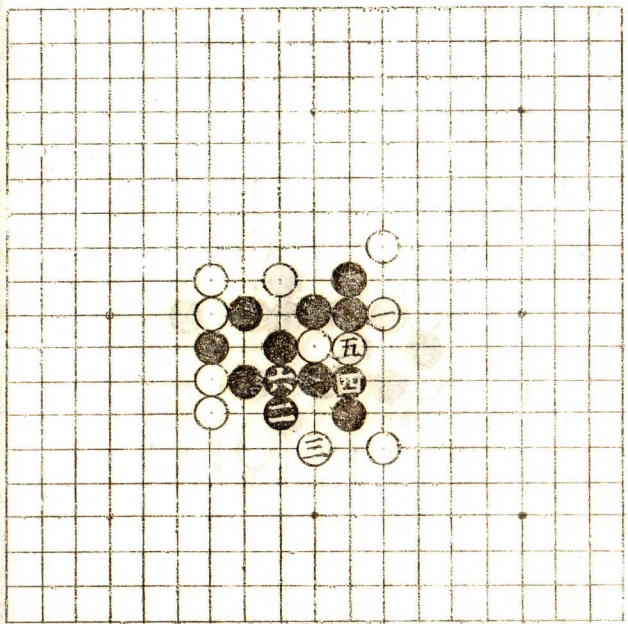
廿六番

廿二番ノ十ヨリ
替ル



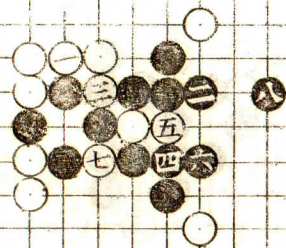
廿七番

廿六番ノ九ヨリ
替ル



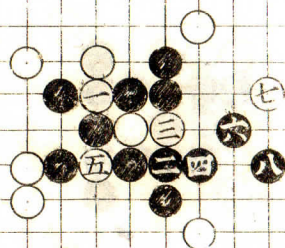
廿八番

廿七番ノ一ヨ
リ替ル



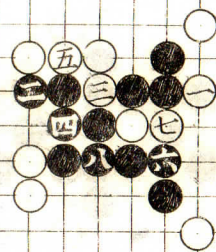
廿九番

廿六番ノセヨリ
替ル

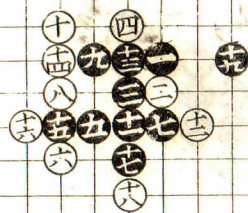


三十番

廿九番ノ一ヨリ
替ル



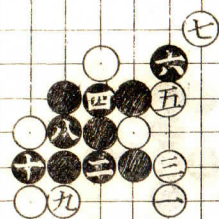
三十一番



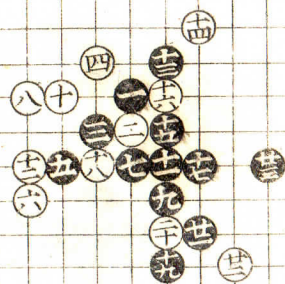
三十二番

卅一番ノ十ヨリ

替ル

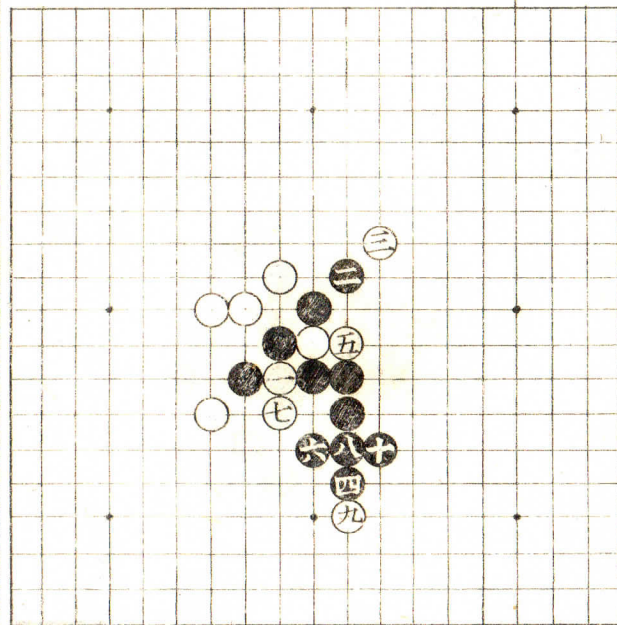


三十三番



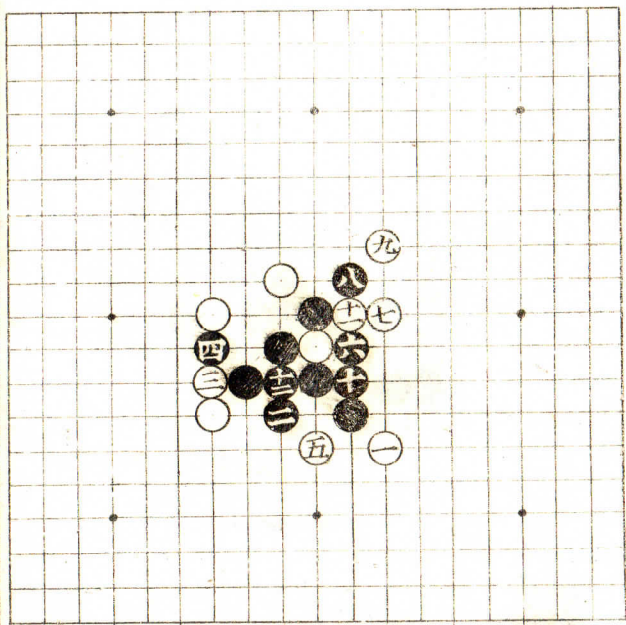
卅四番

卅三番ノ十二ヨリ
替ル



卅五番

卅三番ノ十ヨリ
替ル

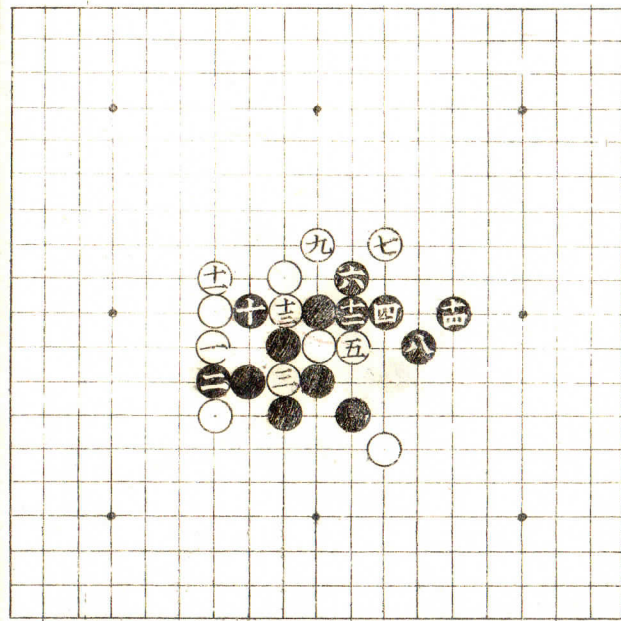


卅六番

卅五番ノ三ヨリ

替ル

此外ノ止ノ様ハ
皆ナ前ノ手ト
同様ノ勝ニナ
ルナリ

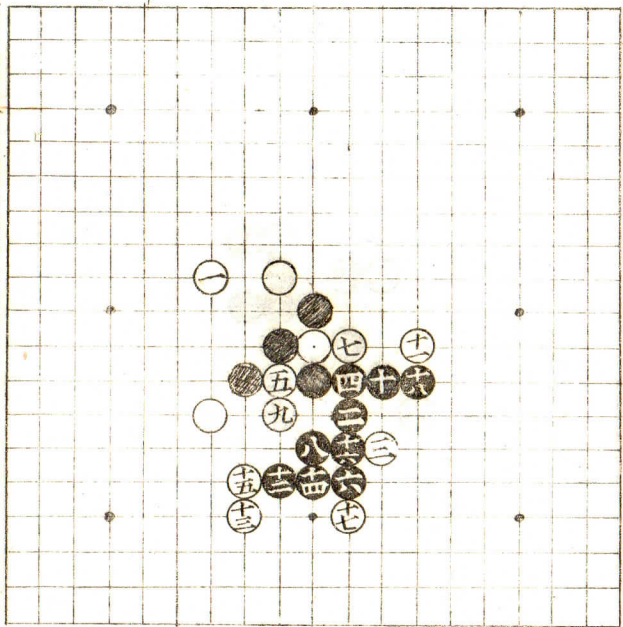


卅七番

卅三番ノハヨリ

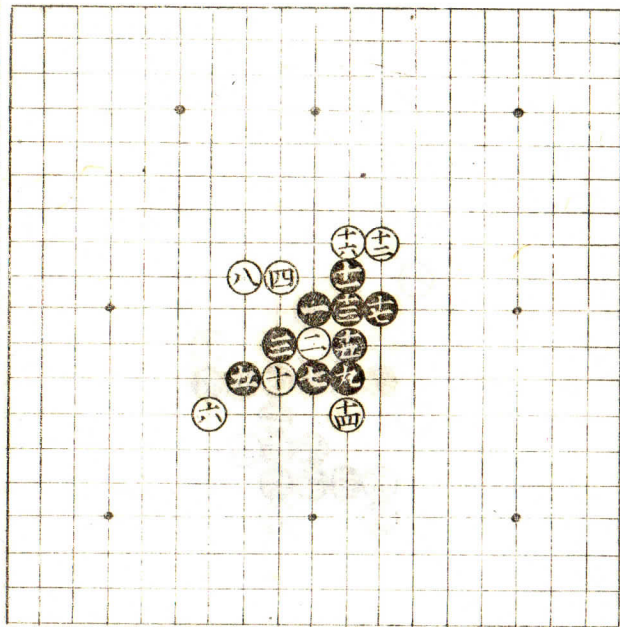
替ル

三ノ時一ノ方カ三
ヲ止レハ廿四番
卅四番同様ノ
勝トナル五ノ時
一ノ筋ヨリ三ヲ
止レハ卅三番同
様ノ勝トナル也



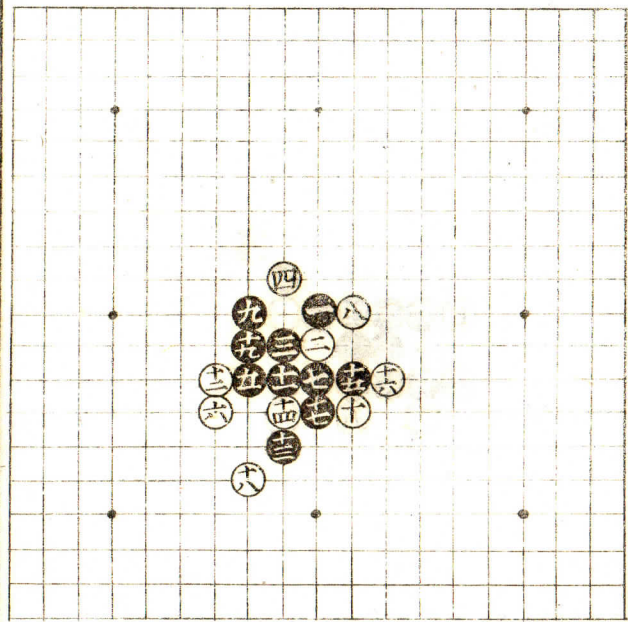
卅八番

三三ノ手モ勝
ナレ共先ツ負
ケ勝チナシト
ス然レトモ手
順ナレハ是レ
ヨリ數番ヲ
示スベシ



卅九番

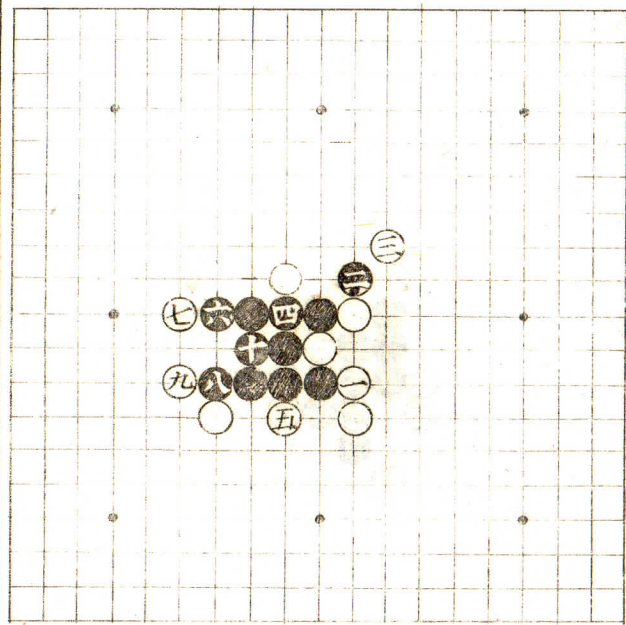
三三ノ勝



四十番

卅九番ノ十二ヨリ

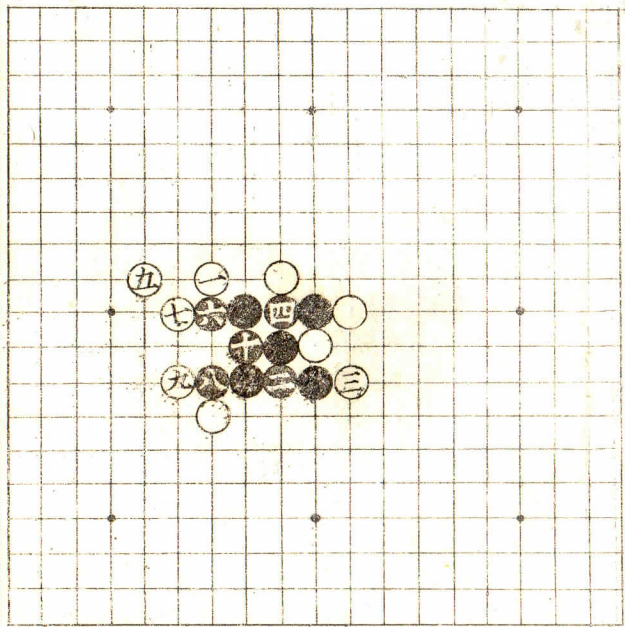
替ル



四十一番

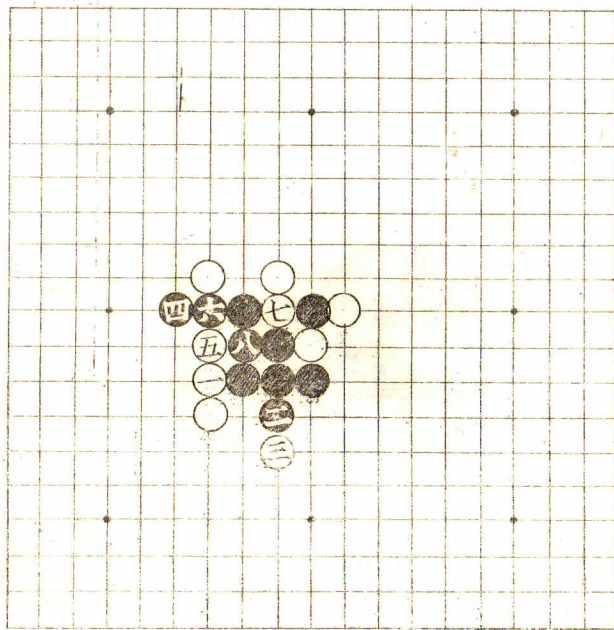
三十九番ノ十ヨリ

リ替ル

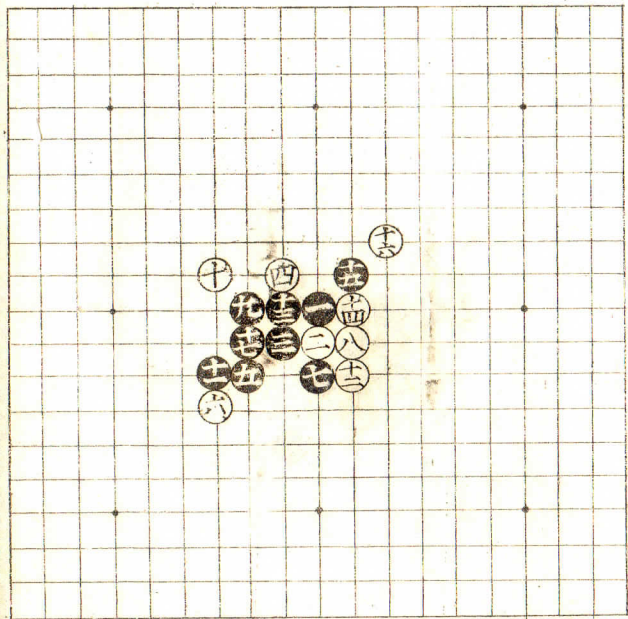


四十二番

四十一番ノ三ヨリ
替ル

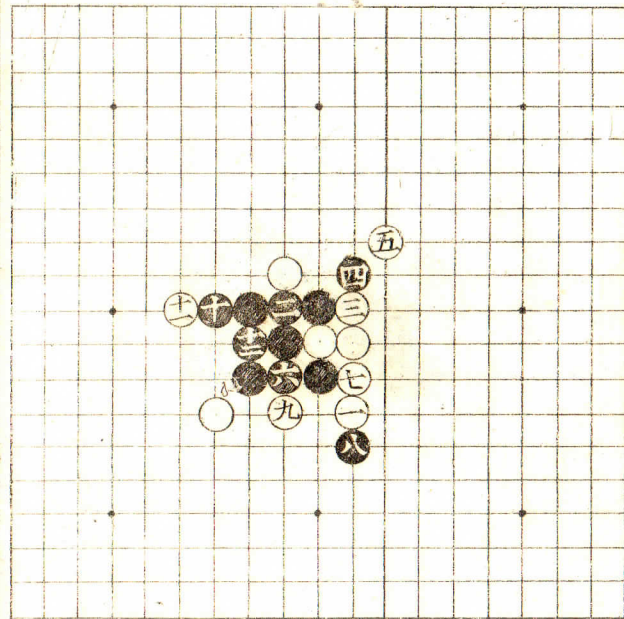


四十三番



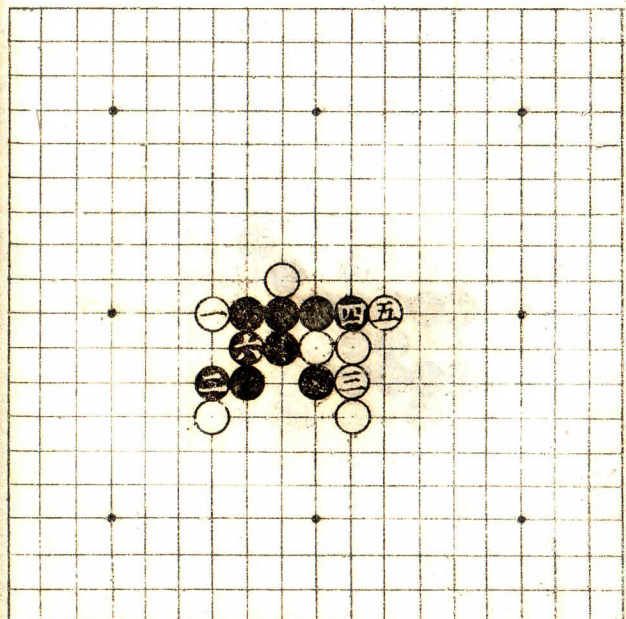
四十四番

四十三番ノ十ヨ
リ替ル



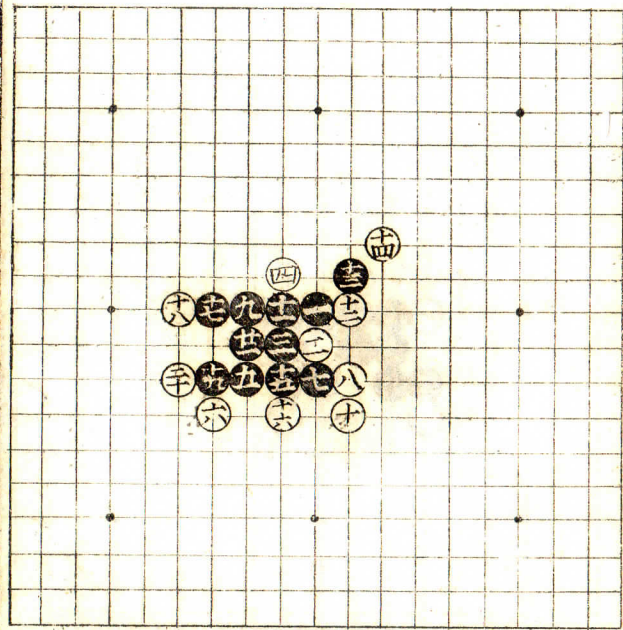
四十五番

四十四番ノ三ヨ
リ替ル
三三ノ勝々



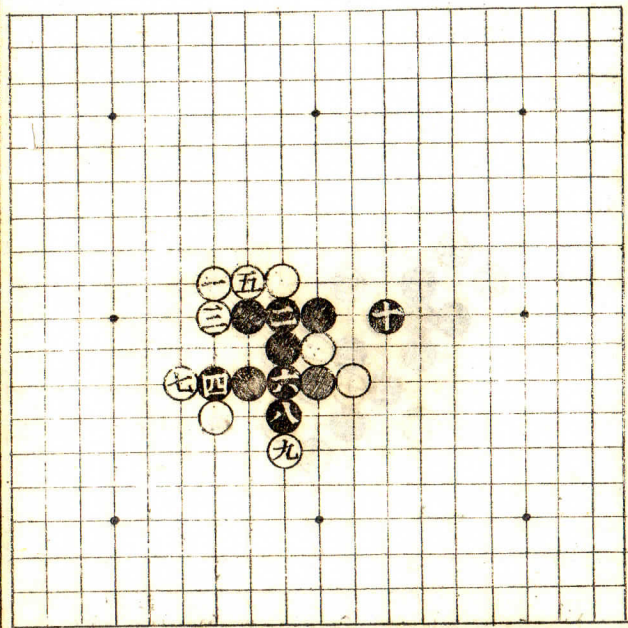
四十六番

三三ノ勝

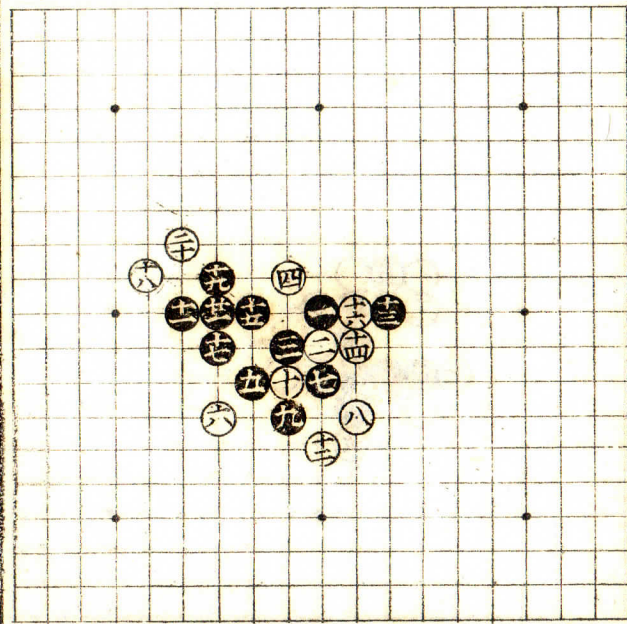


四十七番

三ノ時十ノ隣
ヨリ止レハ四
十一番同様ノ
勝ニナル也

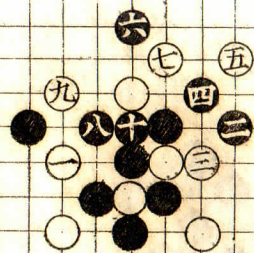


四十八番



四十九番

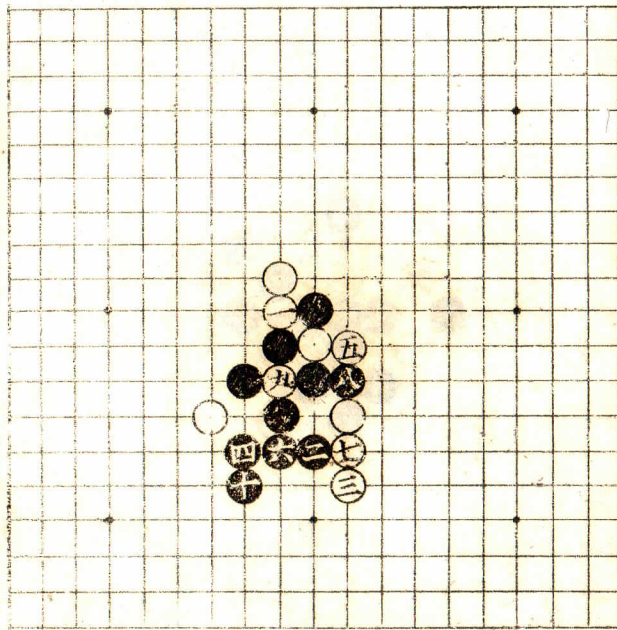
四十八番ノ十二
ヨリ替ル



五十番

四十八番ノ十ヨ
リ替ル

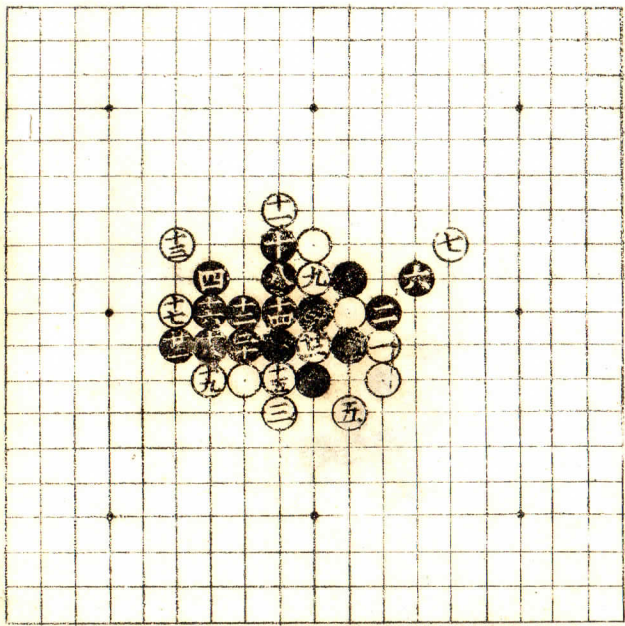
五ノ時下タケ止
レハ左右振替
リテ同様ノ勝
ニナルナリ
此ノ手飛三
三ノ勝也



五十一番

五十番ノ一ヨリ
替ル

五ノ時十二ノ處
ヨリ止レハ四十
九番同様ノ勝
ニナルナリ



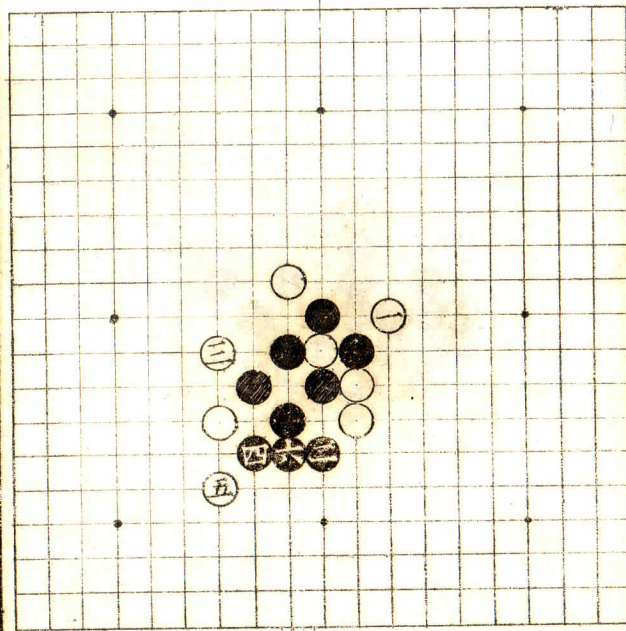
五十二番

五十番ノ三ヨ

リ替ル

飛三三ノ勝

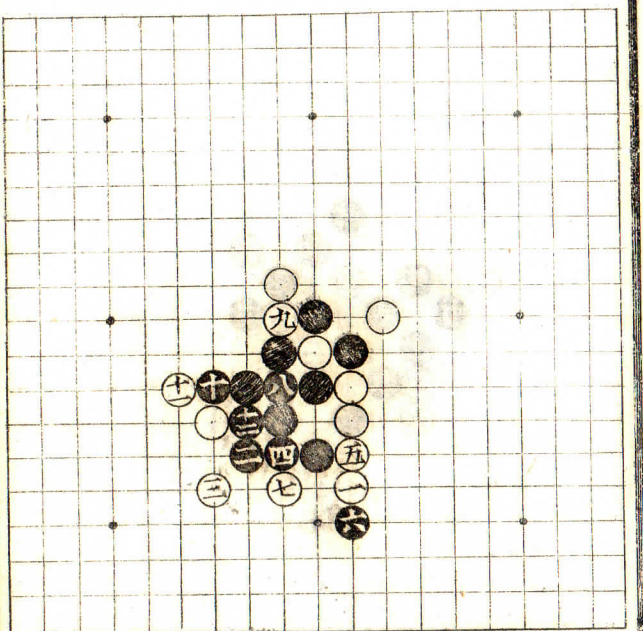
ナリ



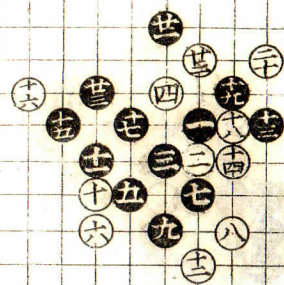
五十三番

五十三番ノ三

ヨリ替ル

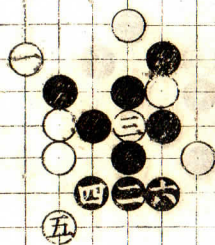


五十四番



五十五番

五十四番ノ十
二ヨリ替ル



五十六番

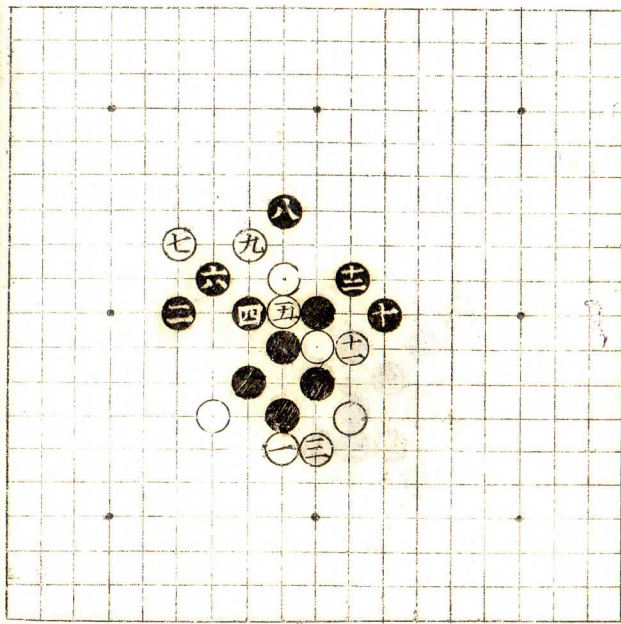
五十四番ノ十
ヨリ替ル

三ノ時中

切レハ四十九

番同様ノ勝

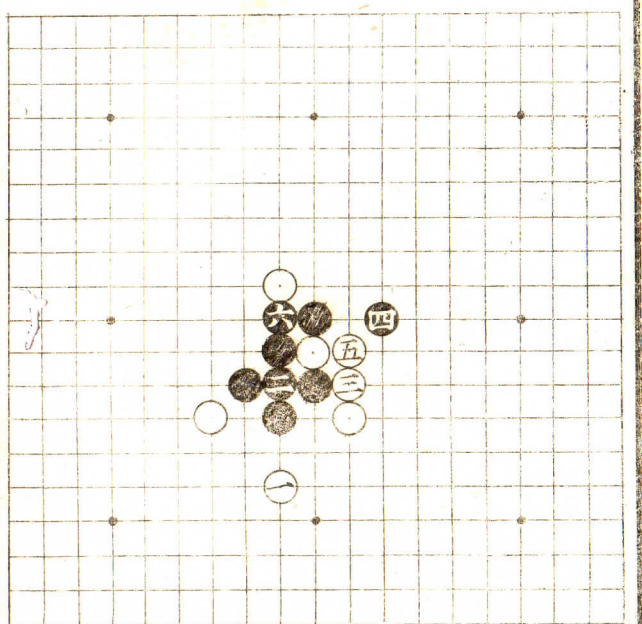
ニナルナリ



五十七番

五十六番ノ一

ヨリ替ル



跋

右古國並指掌抄一卷書律指概
以授邦之人須者同之以示象
未詳古國並者自何時起蓋古國
若象者流之游戲於絕句詩在詩
也雖有大小衣冠而國所承而況
執一也但國者之書世既多有矣
古國並之有書也或以之為嗜矣
乎

辛卯六月
吉田 君源珍士 謹啓

明治廿四年七月十五日印刷
同年七月廿一日出版



著作者 室 直三郎

新瀉縣中頸城郡高田町大字稻田鍛冶

全縣全郡全町大字稻田鍛冶甲四番戸

發行者 室 八九郎

全縣全郡高城村大字裏川原三番戸

印刷者 高 橋 有 吉

東京日本橋區新大坂町

賣捌書林 小林喜右衛門

五曰法知之者勝不知者不勝
豈惟兵為然哉圍碁亦然故講
兵之人必可倫棋局而學碁之
人亦不可不講兵也不然則不
能察死生之地存亡之道所謂

五目並序

平相國清盛へいそうふくきよもり體あやれ目比まらくら山東さんと都おやぢ

軍配ぐんはい加減かげんもめつたよ由ゆだん断はあらぐ

弁慶べんけい法師ほうしも九郎殿くらをどの天狗てんぐ象戲せうぎ鼻はな

をつくれすねを膝ひざ押枕おしまくら引ひきあとの駈だ洒落おやれ握會あんあ